

附属の今 国際教育協力拠点をめざして

附属小学校副校長 坪田耕三

世界の国々から日本の教育に熱い眼差しが寄せられています。先進的な国からも、発展途上の国からも注目されています。日本の教育の質の高さに対してです。

現在、我が校は文部科学省から「国際教育協カイニシアティブ」の事業を引き受けています。

したがって、海外へ教育協力で出掛けている全国の青年教員諸君に出来るだけの支援を行う仕事をしているのです。

また、JICAに協力して海外の教育に研究協力をします。現在は特に算数教育に焦点が当てられています。ですから、我が校の算数部員が中南米の各国に出向き、その先生方に授業の在り方、算数の内容について指導をします。実際に現地で授業研究会を行ってきました。ホンジュラス・グアテマラ・ニカラグア・エルサルバドル・ドミニカ共和国・チリ・アルゼンチンなどに何度も出かけます。

さらに、APECの教育分野の仕事にも協力し、タイ国に出向き、ここでも算数授業研究会を2年続けて行いました。これとはまた別に、独自に米国での算数授業研究会も数回行っていきます。

そして、海外からも沢山の先生方が本校に学びにやってきます。最近では、ただの授業参観にとどまらず、彼等が積極的に本校の教室で授業を行い、それについての協議も行うようになりました。

このような協力は、海外の先生や子どもが少しずつ日本への信頼を増やし、将来の日本を担う我が国の子どもにもよい影響を与えるものと確信します。



海外で授業を行う本校教員



本校で授業を行う海外の教員

《編集後記》

ポローニア11号も皆様のご協力で、無事予定通り発行できました。今年度のポローニアは、季節の移り変わりにこと寄せて、誌面を作り上げてきました。春夏秋冬と人々の心を和ませる自然の大切さを、今こそ継承していく気概が大切のように思っています。

今回は「普通附属学校の未来」と題し特集を組んでみました。それぞれの先生が改革の流れの中で、附属を知り尽くした上で、その夢を語られたことに感謝する次第です。私も東京教育大学教育学部教育学科と教育が三つもかぶる学校を卒業し、附属の先生方には公私ともお世話になっている端くれとして、普通附属がさらに、かたちよく歳を重ねることを願ってやみません。ただ私がそうですが歳をとると、がたが来ます。そのためこのがたをよいかたちへ変えることもあるいは大切なかなとも自戒しています。

ご退職の皆川先生からは、35年間に及ぶご経験を基にした附属への応援メッセージを頂きました。附属学校教育局の指導教員として一緒に仕事をやれたことに感謝します。その他、定着しさらに飛躍する「科学の芽」賞のこと等の定期報告は、季節の恵みを彷彿させるものだったようにも思っています。この広報誌も、すでに三年がすぎます。(江口勇治)

ポローニア
paulownia
vol. 11

発行日……平成20(2008)年1月31日
 発行者……附属学校教育局長 谷川彰英
 発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
 ポローニア編集委員会
 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 電話 03-3942-6800
 編集委員長……江口勇治
 編集委員……生田 茂・田中輝美・菅野和恵・下山晃司
 青山由紀・間々田和彦・大村覚男
 デザイン……スピーチ・バルーン
 印刷……広研印刷 使用紙:U-limax mm [日本製紙]

